

大阪市塾代助成事業の実施状況（平成 26 年 6 月末現在）

1 調査の概要

○平成 25 年 12 月から全区で実施をし、この間、利用者及び保護者や参画事業者を対象にアンケート調査を実施し、この事業の効果と課題を分析・検証した。実施したアンケートの概要は次のとおりである。

利用者・保護者へのアンケート

実施時期	①平成 25 年 12 月	②平成 26 年 3 月	③平成 26 年 4 月	④平成 26 年 5 月
対象者	平成 25 年 12 月に利用可能となった利用者・保護者	平成 25 年度交付決定者で、平成 26 年 3 月に卒業する利用者・保護者	平成 26 年 4 月に利用可能となった利用者・保護者	平成 25 年 12 月に利用可能となった利用者・保護者で①のアンケートに回答した新 2・3 年の継続利用者
配付数	1,601 人	1,000 人	1,200 人	479 人
回答数	725 人	368 人	475 人	332 人
回収率	45.3%	36.8%	39.6%	69.3%

参画事業者へのアンケート

実施時期	平成 26 年 4 月
対象者	平成 26 年 2 月までに登録した事業者のうち利用実績がある教室
配付数	694 教室
回答数	443 教室
回収率	63.8%

2 塾代助成カードの交付・利用状況

	交付者数(人)	交付率(%)
平成 25 年度末	5,958	29.7
平成 26 年 4 月	6,405	32.0
平成 26 年 5 月	7,132	35.6
平成 26 年 6 月	7,573	37.8
平成 26 年 7 月	7,811	39.0
平成 26 年 8 月	8,026	40.1

※交付率は、想定対象者数(20,042 人)に対する率

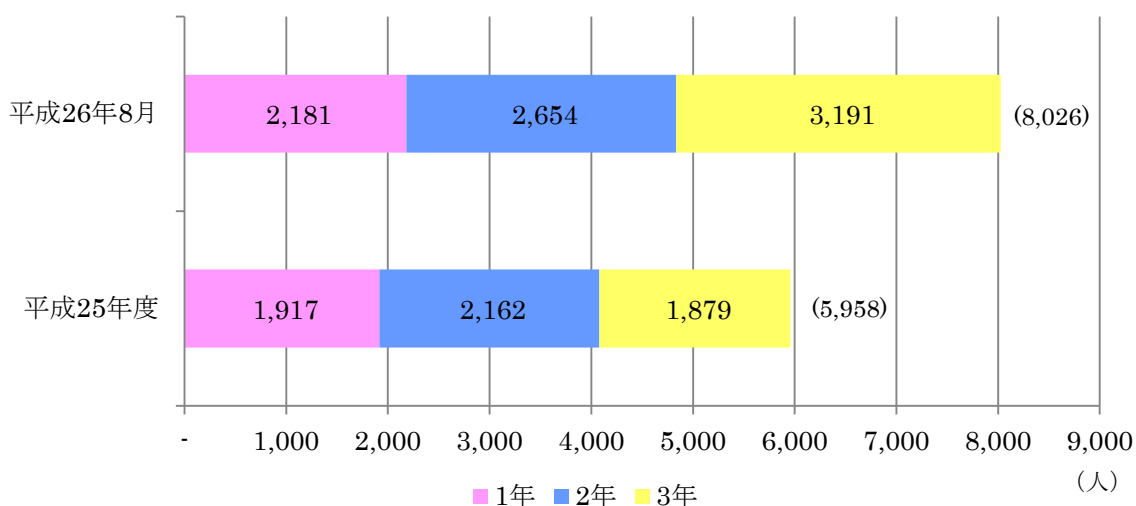
(平成25年度：月別学年別交付者数)

利用 開始月	人数 (人)				累計 (人)	交付率	利用 人数	利用率
	1年	2年	3年	合計				
12月	1,289	1,364	1,364	4,017	4,017	20.0%	2,530	12.6%
1月	276	309	276	861	4,878	24.3%	2,802	14.0%
2月	211	284	173	668	5,546	27.7%	3,635	18.1%
3月	141	205	66	412	5,958	29.7%	3,529	17.6%
合計	1,917	2,162	1,879	5,958				

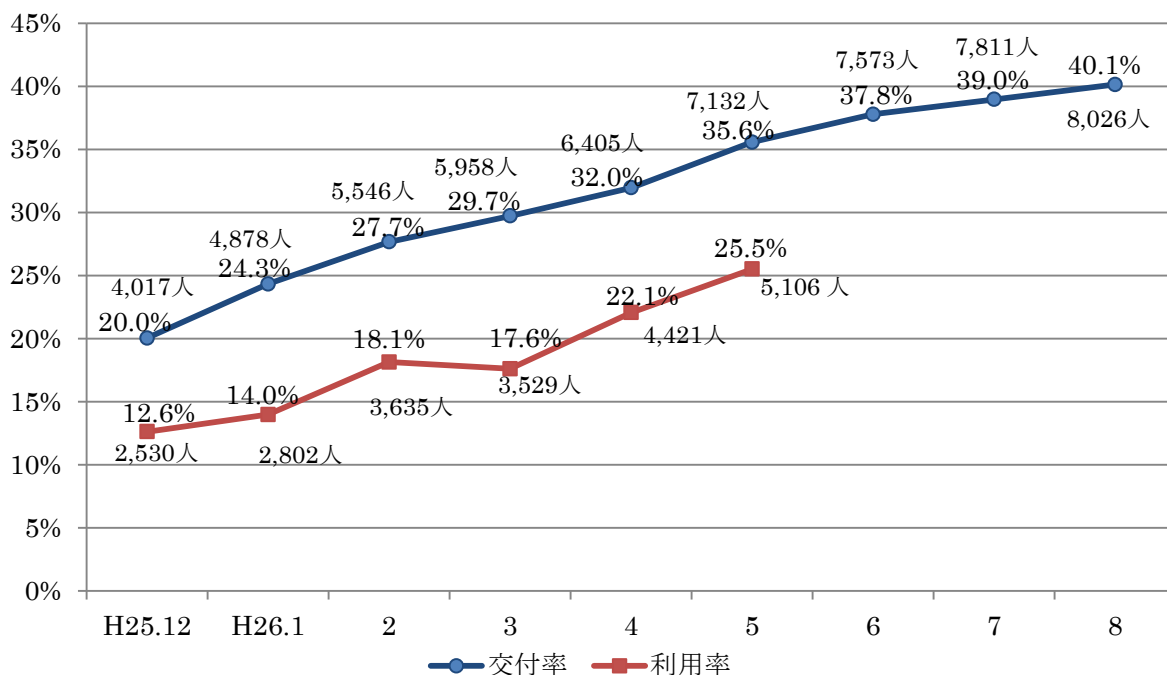
- 平成25年度の期間中(平成25年12月～平成26年3月末)に、1回でもカードの利用があった生徒数 4,315人(利用率21.5%)

(平成26年度：月別学年別交付者数)

利用 開始月	人数 (人)				累計 (人)	交付率	利用 人数	利用率
	1年	2年	3年	合計				
4月	1,507	2,273	2,625	6,405	6,405	32.0%	4,421	22.1%
5月	294	176	257	727	7,132	35.6%	5,106	25.5%
6月	205	96	140	441	7,573	37.8%		
7月	99	55	84	238	7,811	39.0%		
8月	76	54	85	215	8,026	40.1%		
合計	2,181	2,654	3,191	8,026				



(交付・利用状況推移)



- ・塾代助成カードの交付者数は、利用開始月の平成 25 年 12 月の 4,017 人から、平成 26 年 3 月には 5,958 人と順調に増加をしたが、実施期間が 4 ヶ月間と短期間であったこともあり、交付率は利用対象者数の 29.7%にとどまった。しかしながら、平成 26 年度に入ってから、交付者数は着実に増加し、平成 26 年 8 月現在では 8,026 人 (交付率 40.1%) となっており、現在申請中の者を含むと 8,210 人である。
- ・利用者数も、塾代助成カードの交付者数に比例して順調に増加をしている。平成 26 年 3 月は前月よりも減少をしたが、これは中学 3 年生が卒業を間近にして利用を控えたことによる一時的な現象であり、4 月以降、順調に増加傾向を示している。

3 参画事業者の登録状況

平成 25 年 12 月の事業開始当初は、704 の教室が登録していたが、平成 26 年 8 月 1 日現在では、1,227 の教室が登録している。

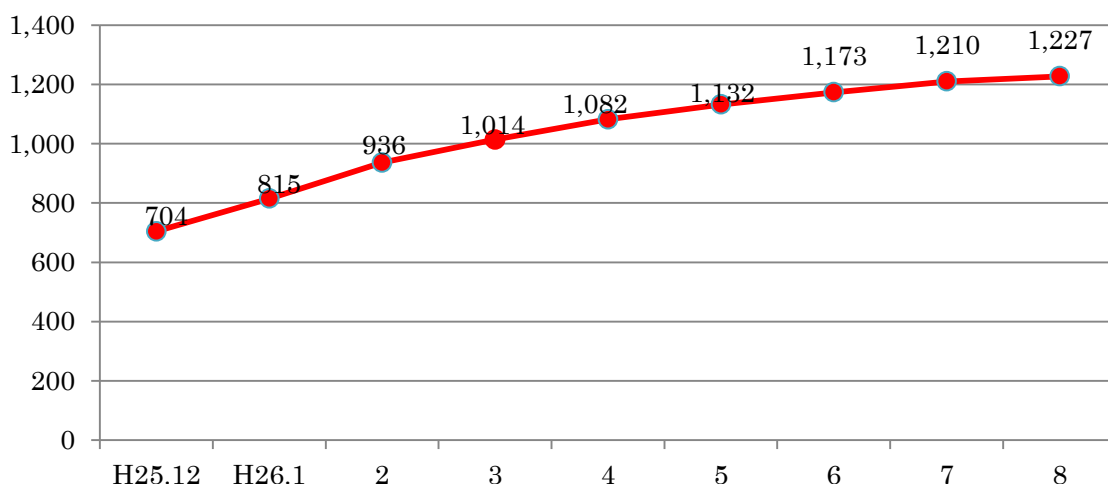
学習塾、文化・スポーツ教室の種類別の登録教室数は、次のとおりである。

学習塾	1,066	文化教室	71
スポーツ教室	52	学習塾・文化教室併設	29
学習塾・スポーツ教室併設	7	文化・スポーツ教室併設	2
学習塾・文化・スポーツ教室併設	0		

※文化教室 (パソコン、音楽、外国語、美術工芸、書道、そろばん等)

※スポーツ教室 (ダンス、空手、柔道、合気道、剣道、水泳、テニス等)

(登録状況推移)



4 塾代助成事業の効果

【利用者への効果】

○「塾代助成カード」を使う目的

「塾代助成カード」を使う目的(複数回答)	12月実施アンケート	4月実施アンケート
①自分の得意な学習を伸ばしたかった、または不得意な学習を克服したかったので	401人 (47.5%)	254人 (44.3%)
②将来の目標や夢のためにもっと学習や習い事がしたかったので	207人 (24.5%)	154人 (26.8%)
③保護者に学習塾や習い事教室へ行くように言われたので	190人 (22.5%)	146人 (25.4%)
④その他	36人 (4.3%)	17人 (3.0%)

- ・平成25年12月及び平成26年4月に実施した利用者へのアンケートで、「塾代助成カード」を使う目的を尋ねたところ、「自分の得意な学習を伸ばしたかった、または不得手な学習を克服したかったので」、「将来の目的や夢のためにもっと学習や習い事がしたかったので」という、利用生徒の積極的な姿勢を表す回答が多くあった。
- ・「その他」としては、「家計の負担を軽減するため」、「すでに通っている塾で塾代助成カードが使えるから」、「親が申し込んでいた」という回答もあった。

○学校外教育の利用状況

卒業を控えた中学3年生へのアンケート

	交付前は学習塾等に通っていなかった	交付前から学習塾等に通っていた	合計 〔人数(割合)〕
新規・拡充(新たに通塾できた、受講科目を増やせた等)	33人 (9.4%)	109人 (31.2%)	142人 (40.6%)
その他	12人 (3.4%)	196人 (56.0%)	200人 (59.4%)
合計〔人数(割合)〕	45人 (12.9%)	305人 (87.1%)	350人 (100%)

・平成 26 年 3 月に実施した、卒業を控えた中学 3 年生へのアンケートでは、「新たに通塾できた」、「受講科目を増やせた」など、塾代助成カードの交付によって、新たに学校外教育を受けることができるようになったという回答が、回答者 350 人のうち 142 人、40.6% の利用者からあった。

平成 26 年 5 月に実施した継続利用者へのアンケート

	交付前は学習塾等に 通っていなかった	交付前から学習塾 等に通っていた	合計 〔人数(割合)〕
新規・拡充（新たに通塾できた、 受講科目を増やせた等）	55 人 (16.8%)	115 人 (35.2%)	170 人 (52.0%)
その他	17 人 (5.2%)	140 人 (42.8%)	157 人 (48.0%)
合計〔人数(割合)〕	72 人 (22.0%)	255 人 (78.0%)	327 人 (100%)

・平成 26 年 5 月に実施した継続利用者へのアンケートでも、回答者 327 人のうち 170 人、52.0% の利用者が「新たに通塾できた」、「受講科目を増やせた」など、塾代助成カードの交付によって、新たに学校外教育を受けることができるようになったという回答をしており、「学力や学習意欲の向上、個性や才能を伸ばす機会の提供」という、事業目的に合致した回答があった。

○成績の変化、学習に対する気持ちの変化

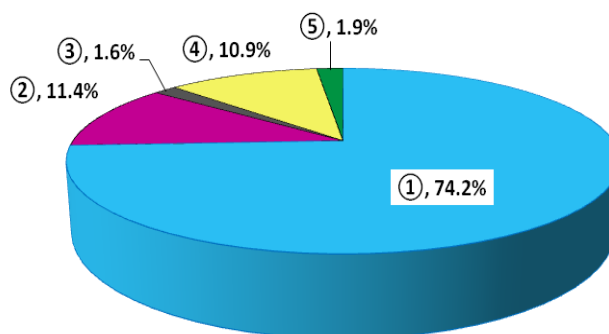
	学校の成績（利用者）			学習に対する気持ち（利用者）	
	卒業時アンケート	5 月アンケート		卒業時アンケート	5 月アンケート
よくなった	186 人 (57.9%)	160 人 (48.2%)	好きになった	120 人 (37.4%)	128 人 (42.4%)
あまり変わらない	125 人 (38.9%)	133 人 (40.1%)	あまり変わらない	191 人 (59.5%)	173 人 (57.3%)
悪くなった	1 人 (0.3%)	1 人 (0.3%)	嫌いになった	0 人 (0.0%)	1 人 (0.3%)

- ・平成 26 年 3 月に実施した卒業を控えた中学 3 年生へのアンケートでは、利用生徒のうち 57.9% (186 人) が「成績が良くなった」と回答しており、保護者からの「こどもの学力が向上した」という回答者数の割合 61.2% (202 人)（8 ページ参照）と、ほぼ同じ結果となっている。
- ・平成 26 年 5 月に実施した継続利用者へのアンケートでも、利用生徒のうち 48.2% (160 人) が「成績が良くなった」と回答しており、保護者も 63.9% (190 人) が「こどもの学力が向上した」と回答しており（8 ページ参照）、約 5 割の生徒及び 5 割を超える保護者が成績の向上を実感している。
- ・また、学習に対する気持ちの変化を尋ねたところ、中学 3 年生へのアンケートでは「好きになった」という回答者が 120 人と、回答者総数の 37.4% を占めており、継続利用者へのアンケートでも、「好きになった」という回答者が 128 人と回答者総数の 42.4% を占めている。

○塾代助成カードを利用したことによる効果

カードを使って学習塾等に通うことで、進学（または就職）の役に立ったか

	人数	割合
① 役に立った	273	74.2%
② どちらともいえない	42	11.4%
③ 役に立たなかった	6	1.6%
④ カードを利用しなかった	40	10.9%
⑤ 無効・無回答	7	1.9%
	368	100.0%



- 平成 26 年 3 月に実施した、卒業を控えた中学 3 年生へのアンケートでは、74.2% (273 人) の利用生徒から「カードを使って学習塾に通ったことで進学（または就職）の役に立った」という回答があった。

「役に立った」と回答した人の 6 割以上が学校の成績が良くなったと回答している。
 また、「役に立った」と回答した人の 9 割の利用者は、希望していた進学先に進むことができた。

○カードを使って学習塾等に通ったことによる変化

カードを使って学習塾等に通ったことによりどのように変わったか（複数回答）	卒業時アンケート	5 月アンケート
① 学習する機会が増えた	143 人 (44.5%)	113 人 (37.4%)
② 自分の不得意な学習がわかりやすくなった	112 人 (34.9%)	101 人 (33.4%)
③ 特に変わらない	88 人 (27.4%)	69 人 (22.8%)
④ 自分の得意な学習や習い事により自信がついた	47 人 (14.6%)	50 人 (16.6%)
④ もっと学びたいという気持ちが強くなった	47 人 (14.6%)	54 人 (17.9%)
⑥ 学校の授業がわかりやすくなった	39 人 (12.1%)	81 人 (26.8%)
⑦ 将来の目標や夢に役立つ学習や習い事を増やすことができた	22 人 (6.9%)	12 人 (4.0%)

- 平成 26 年 3 月に実施した、卒業を控えた中学 3 年生へのアンケートでは、利用生徒のうち 44.5% (143 人) が「学習する機会が増えた」、34.9% (112 人) が「自分の不得意な学習がわかりやすくなった」という肯定的な回答をしている。
- また、平成 26 年 5 月に実施した継続利用者へのアンケートでも、利用生徒のうち 37.4% (113 人) が「学習する機会が増えた」、33.4% (101 人) が「自分の不得意な学習がわかりやすくなった」という肯定的な回答をしている。
- 自由記述で「カードを使って良かったこと、悪かったこと」について意見を聞いたところ、どちらのアンケートでも、良い点として「塾に通えるようになった」、「親の負担が

減った」、「苦手科目がわかるようになった」、「学習する機会が増えた」、「学習意欲が増した」、「勉強に集中できた」、「勉強をもっと続けたいと思った」、「勉強時間が増えた」という意見があった。

- ・一方、悪かった点としては「使える期間が短かった」、「高校まで使いたかった」、「毎月のカードの掲示が面倒(手続きが面倒)」、「月額が増えてもっと勉強したかった」、「カードに写真があるのが嫌だった」、「カードを持っていくのが恥ずかしかった」という意見があった。

○家庭での学習時間

	12月アンケート	5月アンケート	比較
1時間くらい	22.9%	30.1%	+7.2P
30分くらい	23.3%	26.2%	+2.9P
ほとんどしない	32.7%	27.7%	-5.0P

- ・同じ利用者に対して、事業開始当初の平成25年12月と6か月後の平成26年5月のアンケートで、家庭での学習時間を尋ね、その回答を比較したところ、「1時間くらい」、「30分くらい」という回答がそれぞれ7.2ポイント、2.9ポイント増加しており、また、「ほとんどしない」という回答は5.0ポイント減少している。
- ・保護者からの回答でも、「1時間くらい」、「30分くらい」という回答が増え、「ほとんどしない」という回答が減少しており、また、自由記述でも「家庭学習するようになった」、「勉強する時間が増えた」、「勉強に対して前向きになった」という記載があった。
- ・利用者と保護者の両方の回答結果から、この事業の利用によって学習時間が増えていることがうかがえる。

【保護者への効果】

○塾代助成事業による影響

「塾代助成事業」によりどのような影響があったか(複数回答)	卒業時アンケート 人数(割合)	5月アンケート 人数(割合)
①経済的負担が少なくなった	273人(82.7%)	234人(76.7%)
②塾代が軽減された分、こどもの教育に役立つものへの支出を増やすことができた	80人(24.2%)	85人(27.9%)
③こどもの生活態度により影響がみられるようになった	31人(9.4%)	33人(10.8%)

- ・塾代助成事業による影響は、平成26年3月に実施した、卒業を控えた中学3年生の保護者へのアンケート及び平成26年5月に実施した継続利用者の保護者へのアンケートでも「経済的負担が少なくなった」という回答が最も多く、3月のアンケートでは82.7%(273人)、5月アンケートでは76.7%(234人)となっている。
- ・「子育て世帯の経済的な負担の軽減」という、事業目的に合致した回答がほとんどを占めている。

○こどもの学力・学習意欲の変化

	こどもの学力		こどもの学習意欲	
	卒業時アンケート	5月アンケート	卒業時アンケート	5月アンケート
向上した	202人(61.2%)	190人(63.9%)	182人(55.2%)	198人(64.9%)
あまり変わらなかった	104人(31.5%)	91人(29.8%)	126人(38.2%)	97人(31.8%)
低下した	1人(0.3%)	5人(1.7%)	1人(0.3%)	2人(0.6%)

- ・平成26年3月に実施した、卒業を控えた中学3年生の保護者を対象にしたアンケートでは、利用後のこどもの学力や学習意欲の変化について保護者へ尋ねたところ、「こどもの学力が向上した」という回答者数は202人と回答者総数の61.2%を占め、また「学習意欲が向上した」という回答者数は182人と回答者総数の55.2%を占めている。
- ・同様に、平成26年5月に実施した継続利用者の保護者へのアンケートでも、「こどもの学力が向上した」という回答者数は190人と回答者総数の63.9%を占め、また「学習意欲が向上した」という回答者数は198人と回答者総数の64.9%を占めている。
- ・いずれのアンケートでも「学力が向上した」、「学習意欲が向上した」という回答は、回答者総数の半数を超えており、学力や学習意欲の向上に影響を与えていることがわかる。

【参画事業者への効果及び事業への要望】

○「塾代助成事業」に登録申請した主な理由（複数回答）

	件数（割合）
①経済的な理由で学習塾等に通えない子どもたちに、学校外での教育の機会を提供したいので	300（67.7%）
②通っている生徒や保護者から要望があったので	214（48.3%）
③生徒数を増加させたいので	158（35.7%）
④他の学習塾等が登録しているので	99（22.3%）
⑤その他	79（17.8%）
⑥事務局から登録申請依頼の電話があったので	28（6.3%）

- ・登録した主な理由は、「経済的な理由で学習塾等に通えない子どもたちに機会を提供したい」という回答が最も多く、67.7%（300件）であり、この事業の趣旨に賛同し登録していただけたことがうかがえる。
- ・次いで、「通っている生徒や保護者から要望があったので」という回答が48.3%（214件）あり、利用者側からの働きかけによって登録した事業者もあった。

○登録以降の変化（複数回答）

	件数（割合）
①塾代助成を受ける以前から指導している生徒が、塾代助成を利用して通うようになった	304（68.6%）
②塾代助成事業を利用した新規入会の生徒が増えた	185（41.8%）
③特に変化はない	127（28.7%）
④塾代助成事業を利用し、受講教科や種目（冬期講習を含む）を追加する生徒が増えた	33（7.4%）
⑤生徒が増えたので、講師数を増やした（又は増やす予定）	11（2.5%）
⑥生徒が増えたので、受講コース数、定員や教室数を増やした（又は増やす予定）	6（1.3%）

- ・「塾代助成を受ける以前から指導している生徒が、塾代助成を利用して通うようになった」と回答する事業者が 304 件（68.6%）と最も多く、次いで「塾代助成事業を利用した新規入会の生徒が増えた」と回答した教室が 185 件（41.8%）あった。
- ・「生徒が増えたので講師数を増やす（又は予定）」、「受講コース、定員、教室数を増やす（又は予定）」という回答も 17 の教室からあった。

○参画事業者からの要望

塾代助成が変わればいいと思うこと（複数回答）	件数（割合）
①10%の参画事業者負担が廃止される	358（80.8%）
②請求の事務処理等が簡略化される	224（50.6%）
③カードを利用する中学生が増える	143（32.3%）
④大阪市からの支払の時期がもっと早くなる	110（24.8%）
⑤生徒のプライバシーを容易に保護できる制度になる	61（13.8%）
⑥その他	58（13.1%）

- ・事業の改善点として、「10%の参画事業者負担が廃止される」、「請求の事務処理等が簡略化される」を求める事業者が多い。
- ・その他、「小学生・高校生を対象にする」、「請求手続きをネットで完結させる」といった意見もある。
- ・参画事業者への登録を依頼した際に謝絶される場合があり、その理由としては、「10%の負担ができない」、「手続き（申請・請求）が煩雑」、「本部方針」が多い。

5 塾代助成事業についての改善点

○塾代助成カードを利用しなかった理由

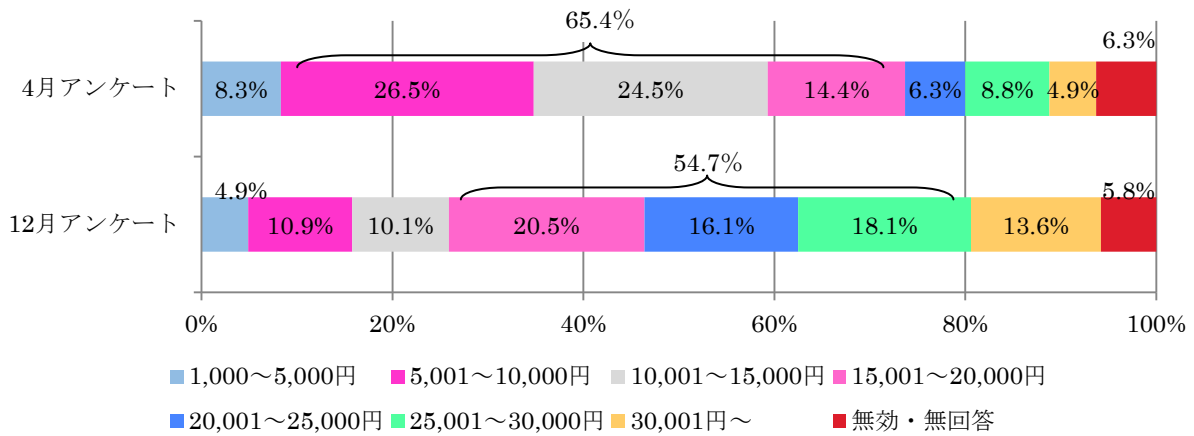
「塾代助成カード」を利用しなかった理由（複数回答）	卒業時 アンケート	5月 アンケート
①現在利用しているサービスが、本事業の対象外など 参画事業者ではないので	19人(50.0%)	9人(33.3%)
②参画事業者リストの中に、行きたい学習塾等がない ので	9人(23.7%)	6人(22.2%)
③その他	8人(21.1%)	4人(14.8%)
④こどもが学習塾等に通いたいと言っていないので	3人(7.9%)	1人(3.7%)
⑤助成金額だけでは学習塾等に通えないため	2人(5.3%)	4人(14.8%)
⑥現在利用しているサービスが通信教育なので	2人(5.3%)	5人(18.5%)

- ・平成26年3月に実施した、卒業を控えた中学3年生の保護者を対象にしたアンケートで、「カードを利用していない」と回答した保護者（38人）に対して、カードを利用しなかった理由を尋ねたところ、「現在利用しているサービスが本事業の対象外など参画事業者ではないので」という回答が最も多く19人(50.0%)からあった。
- ・平成26年5月に実施した継続利用者の保護者へのアンケートでも「カードを利用していない」と回答した保護者（27人）のうち、9人(33.3%)が「現在利用しているサービスが本事業の対象外など参画事業者ではないので」と回答しており、現在、通塾している学習塾等が参画事業者として登録していないため、塾代助成カードが利用できず、助成が受けられないという実態がある。
- ・また、次いで「参画事業者リストの中に行きたい学習塾等がないので」という回答も多く、平成26年3月に実施したアンケートでは9人（23.7%）から、平成26年5月に実施した継続利用者の保護者へのアンケートでも6人（22.2%）からあり、参画事業者の登録をさらに促進する必要がある。

6 その他

○学習塾や文化・スポーツ教室にかかる費用（月額）

- ・塾代助成カードの交付を受ける以前に、学習塾等に通塾するのにかかった費用は、平成26年4月に実施した利用者の保護者へのアンケートでは平均で月額15,525円、平成25年12月に実施した利用者の保護者へのアンケートでは平均で月額22,371円であり、両アンケートを平均すると月額19,755円となっている。
- ・平成24年度に文部科学省が実施した「こどもの学習費調査」では、公立中学校に通う生徒の学校外活動費は年間282,692円で、そのうち学習塾等にかかる補助学習費は224,409円という結果がでている。
- ・学校外学習に係る費用の半額相当の助成として設定した助成金額の月額10,000円は、アンケート結果等から見ても、実態に即したものであるといえる。



○保護者が考える妥当な助成金額

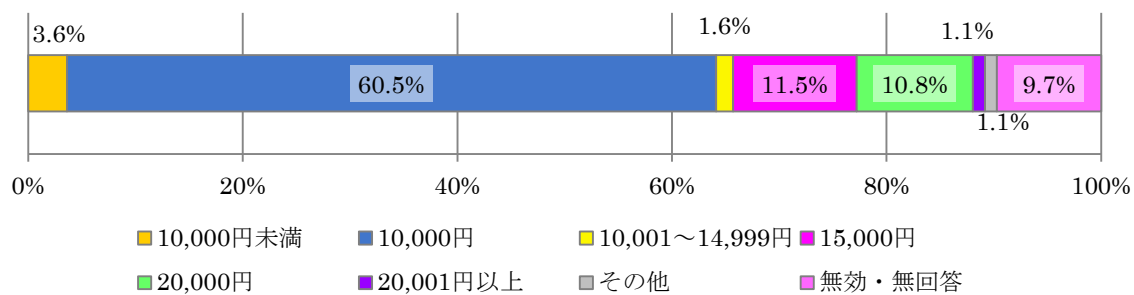
	12月 アンケート	4月 アンケート
①15,000円	25.0%	28.6%
②20,000円	34.6%	28.0%
③10,000円	23.9%	26.1%

- ・保護者が妥当と考える助成額の金額は、平成25年12月に実施した利用者の保護者へのアンケートと平成26年4月に実施した利用者の保護者へのアンケートでは割合は異なるが、月額20,000円と月額15,000円と応える保護者の割合は高く、「事業の改善点」の回答にもあるように助成金額の増額を希望する保護者がいる一方で、現在の助成金額である10,000円が妥当であると考えている保護者もそれぞれ23.9%、26.1%ある。
- ・また、自由記述では、「学年ごとに金額を変える」、「夏期・冬期講習時の別途助成」、「入学金の助成」、「塾代等の金額に応じた助成（費用の何%）」などの要望もあった。

(参考：妥当だと考える金額帯・学年別（4月アンケート）)

	全学年			人数(割合)
	1年	2年	3年	
10,000円未満	1(0.3%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(0.2%)
10,000円	81(26.2%)	22(32.8%)	21(21.4%)	124(26.1%)
10,001~14,999円	9(2.9%)	3(4.5%)	2(2.1%)	14(2.9%)
15,000円	97(31.3%)	15(22.4%)	24(24.5%)	136(28.6%)
15,001~19,999円	4(1.3%)	1(1.5%)	2(2.1%)	7(1.5%)
20,000円	80(25.8%)	19(28.3%)	34(34.7%)	133(28.0%)
20,001~25,000円	5(1.6%)	2(3.0%)	1(1.0%)	8(1.7%)
25,001円以上	9(2.9%)	2(3.0%)	8(8.1%)	15(3.2%)
その他	5(1.6%)	0(0.0%)	1(1.0%)	6(1.3%)
無効・無回答	19(6.1%)	3(4.5%)	5(5.1%)	27(5.7%)

○参画事業者が考える妥当な助成額



- ・参画事業者が考える妥当な助成額は、「10,000円」が最も多く、6割を超えており、次いで、「15,000円」、「20,000円」と続く。
- ・「10,000円」と回答する中にも、「中学3年生は20,000円」というように、学年ごとに金額を変えるという意見もあった。